

平成十八年度入試報告

公立校の気概を持って
文武両道で難関大めざす

進路指導部長 門井 了

平成十八年度入試は、新課程初年度の入試ということで注目されました。教育課程の変わり目のゼンター試験はこれまで易化する傾向がありましたが、文系・理系とも900点満点で平均が30点前後上昇しました。本校生の平均点も、文系(6教科7科目)が724・5点、理系(5教科7科目)が736・4点と、前年に比べて大幅にアップしました。結果、強気の出願で、二次力の有無が明暗を分けた入試になりました。

国立難関大及び医学部医学科志向は今年度も顕著でした。新卒生に限ると、北大、東北大、東大、東工大、一橋大、大阪大、京都大、それに地元筑波大と国立大医学科の実受験者数は240名で、これは国立大実受験者総数の88・9%にもあたりません。合格者は84名で、国立大合格者115名の73%にとどまっています。

新卒・既卒合わせた国立大合格者数を大学別に前年度と比較してみると、増加が目立ったのが、北大8名(プラス4)、千葉大17名(同7)、大阪大7名(同5)、逆に減らしたのが、東北大22名(マイナス7)、筑波大39名(同7)、東大21名(同5)、一橋大4名(同7)、横浜国大0名(同9)となっています。国立大全体では、177名の合格で、前年比22名減でした。新卒生が合格した国立大学数は四年連続25大学でした。公立大では、12名が合格(前年比マイナス2名)、地元県立医療大

の合格者はありませんでした。東大の実験結果は、実受験者数で、文系36名(新卒31名、理系38名(同24名)の合わせて74名(同55名)が挑戦し、文系9名(同5名)、理系12名(同10名)の合計21名(同15名)が合格しました。そのうち後期合格者は文科一類の既卒生1名でした。最後までねばり強く辛抱した結果です。

医学部は、国立大学医学部医学科に限定すると、21名(昨年16名)が合格、新卒生では延べ43名(昨年40名)が受験し、筑波大に3名、群馬大、長崎大に各2名、山形大、信州大、宮崎大の各大学に1名ずつ、計10名(昨年11名)が合格しました。昨年に続いて二桁の合格者を出したのは立派です。

私立大の総受験者数(新卒生・過年度卒生の延べ合計数)は1312名(昨年1372名)、合格者数は671名(昨年707名)、新卒生に限ると、受験者数が前年と同数の871名、合格者数では28名減の335名でした。例年同様、慶応大、中央大、東京理科大、明治大、立教大、早稲田大で多くの合格者を出しています。

新卒生の進学率は57・5%(昨年64・4%)でした。やはり、国立大の合格者数が昨年より25名少なかつたことが数字に直結しているようです。難関大志向は続くでしょうから、進学率があがるためには、低学年からの授業を軸に据えた学力の増進が望まれます。本校は受験に特化したカリキュラムをとらず、文武両道を奨励しております。と申しますのも、生徒の長い将来を見据えての全人教育を旨としているからであります。公立高校としての自信と誇りを持って邁進していく所存であります。

平成18年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

大 学	合格者	新 卒
旭川医科大	2	0
北海道大	8	4
弘前大	1	0
岩手大	1	0
東北大	22	16
山形大	1	1
茨城大	9	9
筑波大	39	29
群馬大	3	2
埼玉大	1	1
千葉大	17	9
お茶の水大	6	4
東京大	21	15
東京医歯大	3	0
東京外語大	4	4
東京学芸大	3	1
東京芸大	1	1
東工大	5	3
東京農工大	1	0
一橋大	4	2
新潟大	2	0
山梨大	2	0
信州大	1	1

大 学	合格者	新 卒
名古屋大	1	1
京都大	4	1
大阪大	7	4
神戸大	1	1
奈良女子大	1	1
岡山大	1	1
徳島大	1	1
愛媛大	1	0
長崎大	2	2
宮崎大	1	1
国立大計	177	115
(医学科)	(21)	(10)
首都大東京	5	4
横浜市立大	1	0
静岡県立大	2	1
岐阜薬科大	2	1
大阪府立大	1	0
奈良県立医科	1	0
公立大計	12	6
国公立大計	189	121

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	12	10
学習院大	8	7
慶応大	53	26
国際基督大	4	1
上智大	17	12
中央大	39	23
津田塾大	4	4
東京女子大	7	6
日本女子大	5	4
東京理科大	106	48
明治大	74	40
立教大	38	23
早稲田大	87	46
法政大	21	13
北里大	9	0
芝浦工大	18	11
日本大	18	7
同志社大	4	2
立命館大	6	3
産業医大	1	0
その他	140	49
私立大計	671	335
合格者総数	860	456